



大 場 恒 明 先 生 近 影

大場恒明先生経歴・研究歴

(一九三三年十二月二八日宮城県生まれ)

経歴(学歴・職歴)

- 一九五六年 三月 東北大学文学部フランス文学フランス語学科卒業
- 一九五六年 四月 東北大学文学部助手(仏文研究室勤務) 〓一九五七年三月
- 一九五九年 三月 東北大学大学院文学研究科フランス文学フランス語学専攻修士課程修了
- 一九六四年 四月 日本女子大学一般教育課程専任講師
- 一九七一年 四月 日本女子大学一般教育課程助教
- 一九八二年 四月 日本女子大学一般教育課程教授 〓一九八九年三月
- 一九八九年 四月 神奈川大学経営学部教授 〓二〇〇四年三月

研究歴

(1) 著書、論文、分担執筆

- 一九五七年 七月 「アンドレ・ジッドにおける無償の行為の問題」(「Regards」No. 1 東北大学フランス文学会)
- 一九五九年 三月 「Narcissisme chez André Gide」(東北大学学位論文・文学修士)
- 一九五九年 七月 「アンドレ・ジッドの『パリュド』」(「文化」第二巻第二号、東北大学文学会)
- 一九六〇年 九月 「ラスキンとブルースト」(「比較文学」第三号、日本比較文学会)
- 一九六六年 十月 「日本におけるアンドレ・ジッド文献(一)」(「比較文学」第九号、日本比較文学会)
- 一九六七年 十月 「日本におけるアンドレ・ジッド文献(二)」(「比較文学」第十号、日本比較文学会)
- 一九六九年 十月 「大正期のアンドレ・ジッド紹介」(「比較文学」第十二号、日本比較文学会)

- 一九七四年 十月 『欧米作家と日本近代文学』第二卷（劍持武彦編、教育出版センター、分担執筆「アンドレ・ジツド——「偏見なき精神」との邂逅）」
- 一九七八年 一月 『比較文学辞典』（松田穰編、東京堂出版、「アンドレ・ジツド」の項分担執筆）
- 一九八〇年 三月 「アンドレ・ジツドのドストエフスキー受容に関する覚え書（一）」（『日本女子大学紀要・文学部』第二九号）
- 一九八一年 三月 「アンドレ・ジツドのドストエフスキー受容に関する覚え書（二）」（『日本女子大学紀要・文学部』第三十号）
- 一九八四年 七月 「高村光太郎とエミール・ヴェルハールン」（『国文学年次別論文集・近代・昭和五七年』、朋文出版）
- 一九八五年 三月 「『袈裟と盛遠』試論」（『比較文学』第二七号、日本比較文学会）
- 一九八七年 六月 「『羅生門』に関する一つの仮説」（『国文学年次別論文集・近代・昭和六十年』、朋文出版）
- 一九八八年 三月 「訳詩家としての高村光太郎—エミール・ヴェルハールン詩篇をめぐって」（『日本女子大学紀要・文学部』第三七号）
- 一九八八年十二月 『小学館ロベール仏和大辞典』（小学館、一三一項目分担執筆）
- 一九八九年 三月 「『薺の中』の二重性」（『日本女子大学紀要・文学部』第三八号）
- 一九九一年 七月 「虚ろな風景のエクリチュール」（『神奈川大学評論』第十号、神奈川大学広報部）
- 一九九二年 三月 「十七世紀フランスが垣間見ていた日本」（『麒麟』第一号、神奈川大学経営学部十七世紀文学研究会）
- 一九九三年 三月 「『蟬と蟻』考」（『麒麟』第二号、神奈川大学経営学部十七世紀文学研究会）
- 一九九四年 三月 「ドン・フワン断想（一）」（『麒麟』第三号、神奈川大学経営学部十七世紀文学研究会）
- 一九九六年 三月 「『羅生門』Jucunística」（『麒麟』第五号、神奈川大学経営学部十七世紀文学研究会）
- 一九九七年 三月 「ドン・フワン断想（二）」（『麒麟』第六号、神奈川大学経営学部十七世紀文学研究会）
- 一九九九年 三月 「エミール・ヴェルハールンのImages Japonaisesをめぐる」（『国際経営論集』No.16・17）

神奈川大学経営学部

二〇〇〇年 三月 「エミール・ヴェルハーレンと上田敏」〔「麒麟」第九号、神奈川大学経営学部十七世紀文学研究会〕

二〇〇〇年 九月 『物語の構築と解体―比較文学的芥川再読』(蒼穹出版)

二〇〇一年 三月 「明治期におけるエミール・ヴェルハーレン移入」〔「麒麟」第十号、神奈川大学経営学部十七世紀文学研究会〕

二〇〇二年 三月 「大正期におけるエミール・ヴェルハーレン移入(一)」〔「麒麟」第十一号、神奈川大学経営学部十七世紀文学研究会〕

二〇〇三年 三月 「大正期におけるエミール・ヴェルハーレン移入(二)」〔「麒麟」第十二号、神奈川大学経営学部十七世紀文学研究会〕

二〇〇三年 七月 『アンドレ・ジッドと日本近代文学』(蒼穹出版)

二〇〇三年十二月 『芥川龍之介新辞典』(関口安義編、翰林書房、メリメ、バルザックの項分担執筆)

二〇〇四年 三月 「金子光晴とブリュッセルを歩く」〔「麒麟」第十三号、神奈川大学経営学部十七世紀文学研究会〕

二〇〇四年 三月 「日本におけるエミール・ヴェルハーレン」〔「国際経営論集」No. 27、神奈川大学経営学部〕

(2) 「フランス語教育」 関連

一九六四年 三月 『楽しいフランス語』(共著、文林書院)

一九七七年 三月 『ル・フランセ』(共著、文林書院)

一九七八年 三月 『ヌーヴェル・エチュード・文法篇』(共著、文林書院)

一九七八年 三月 『ヌーヴェル・エチュード・読本篇』(共著、文林書院)

一九八一年 三月 『フランス語のアウトライン』(単著、行人社)

一九八五年 三月 『ヌーヴェル・エチュード・文法篇・全面改訂版』(共著、行人社)

- 一九八五年 三月 『ヌーヴェル・エチユード・読本篇・全面改訂版』（共著、行人社）
 一九九五年 四月 『Bonjour!』（共著、私家版、三友社）

(3) その他

- 一九七七年 六月 (翻訳) Ian Fallows-Gordon 他著 『世界を変えた一〇〇の出来事』 全七巻 (共訳、インターナショナルタイムズ)
 一九九五年 六月 (分担翻訳・解説) 「フランス・外交における中級大国の自負」(『米国の国際交渉戦略』、橋本光憲編、中央経済社)
 一九九九年 三月 (エッセイ) 「ベルギーのバイリンガリズム」(「国際経営フォーラム」No.10 神奈川大学国際経営研究所)

(4) 海外研修

- 一九六七年 七月 日仏文部省共催「フランス語教授法・文明講座スタージユ」参加(ポー、パリ)およびパリ大学聴講生。〜一九六八年九月
 一九八二年 四月 「アルベール一世王立図書館」(ブリュッセル)研修、日本女子大学在外研修制度による。〜一九八三年三月
 一九九七年 四月 「アルベール一世王立図書館」客員研究員、神奈川大学在外研究制度による。〜一九九八年三月